

ポータルサイト 第1回バスボランティア開催（福井県民生協）



社鹿半島の狐崎浜では、がれき撤去ボランティアを行なった。
発泡スチロールが多く、細かくちぎりながら、作業を行なう。

福井県民生協では、6月22～25日、被災地支援のボランティアバスを企画運営してきた福井のNPO「未来ビレッジ JAPAN」との共催で、宮城県石巻へのバスボランティアを実施。職員・組合員27人が参加しました。第2回は、「未来ビレッジ JAPAN」と共に、9月21～24日に開催する予定です。

ポータルサイト おまんじゅうを、みんなで作ろう（パルシステム埼玉）

パルシステム埼玉は、6月27日、福島県双葉町から埼玉県加須市の旧騎西高校へ避難している方たちと組合員との交流を目的に、「味噌まんじゅう作り」講習会を開催しました。講師は、双葉町で約70年和菓子店を営んできた森正夫さんです。作業後は、避難されている方が双葉町の家庭料理をふるまい、話が弾んでいました。



味噌まんじゅうは、森さんのお店の名物のお菓子。
参加者たちは、慣れない作業に苦戦しながらも、
森さんの指導のもと、楽しく作っていた。

ポータルサイト 日本一暑い町のお菓子をお贈りしました（コープぎふ）



コープぎふが行なっている行政訪問で、多治見市の古川市長に面会した際、「そのようなすてきな活動でしたら、ぜひ!」と、多治見市のマスコットキャラクターのグッズなどをいただいた。

コープぎふでは、岐阜県の代表的なお菓子をみやぎ生協の「ふれあい喫茶」にお届けしています。8月3日には、日本一暑い町として全国的にも有名となった多治見市の「多治見さくさくクッキー」を贈りました。活動に賛同した多治見市から、うちわや風鈴などの提供もあり、市長のメッセージも添えてお送りしました。



「伝えたい被災地」

このコーナーでは、ライター荒川和巳さんが被災地に行き、見たもの、感じたものを、お伝えしていきます。

生協プロデュースによる、福島の子どもたちに県外で過ごしてもらうプロジェクトが好評だ。正直、当初は「数日くらい福島を離れてもなあ」と思っていたが、効果は絶大。子どもたちののはしゃぎっぷりに大人の方が癒される。

「子どものあんな笑顔は久しぶりに見ました」。親子参加のプロジェクトで取材したお母さんが明かした。行政、専門家、そして身内の意見までもが交錯し、混乱しているのだという。「放射能は危ない。すぐに引っ越せ」「大丈夫だ。問題ない」「外で遊ばせるな」「遊ばせなくてはダメだ」——どうしていいかわからない。「ひとときでも福島を離れ、のんびりできて本当によかった」と笑顔を見せた。

子どもたちが日差しの下で遊ぶのは当たり前なことなのに、それすらかなわない現実に、被災地から離れた私たちがどのように関わっていけるのか。「宿題」と格闘する日々が続く。ロンドン五輪では、多くのトップアスリートが「被災地の皆さんのためにメダルを」とコメントした。自分ができる最善のことをしたい。その気持ちはしっかり伝わっていると思う。



今から海岸で、スイカ割り!